

「特別支援教育におけるICT活用」



日本福祉大学教授 金森克浩先生をお迎えして、上記のテーマで研修会を行いました。研修内容は、ICTに関する講義とiPadを使った演習でした。

ICTに関する講義では、「合理的配慮」と「基礎的環境の整備」といった学びの環境を整える視点や、「児童・生徒の魅力を引き出す教育」、「できる」「できない」以外の多方向な見方の必要性（個の能力とニーズの合致）などについて、様々な映像を交えながらお話しいただきました。

世の中の変化に伴い、ICT（Information and Communication Technology）機器を活用することで、表現の手段や情報の収集においてできることが増えてきた背景や、ICTの捉え方を「Individualized（個々の）Characterized（特性に応じた）Tool by the disability（支援機器）」として取り入れることで、授業を少し進化させていくという今後の方向性を示していただきました。

また、「コミュニケーション支援」「活動支援」「学習支援」「実態把握支援」としてiPadを使った全国の特別支援学校の実践事例を数多くご紹介いただきました。

そして、iPadを使った演習では、学習場面におけるカメラ機能の有効活用を学んだり、電子ブックを利用した教材作りをグループごとに行ったりしました。また、「Drop Talk」、「Book Creator」、「KOMA KOMA」、「O×クイズ」等、明日から使えるアプリやソフト、便利な機能等を多数ご紹介いただきました。

金森先生は、講義の中で、次のようにお話ししてくださいました。

「未来は、自分達で作り出すものです。テクノロジーの発達による便利さへの偏りは、人間の退化につながりかねない面もあります。しかし、ツールを使いこなすのは人間です。「人間が少し手伝わないと機能しない機器」を利用することで、人間の能力や思いやりがより引き出される、ということが研究されています。「気持ちを表すアプリ」では、気持ちや声の音量のコントロールを楽しんで身に付けられますし、イメージを音や形にして表現するときにもデジタルは非常に便利で、可能性がより広がるでしょう。ICTを活用するにあたっては、『障害や学習の困難を補うための支援として使われているか？』『学習内容の理解を促進するための支援として使われているか？』『ICT機器の特徴が生かされているか？』を踏まえた上で上手く授業に取り入れ、児童・生徒のより良い学びにつなげていってください。」

今後も本研修の成果を生かし、児童・生徒が主体的に学習に取り組める教材の開発や授業づくりに、教員一同励んでいきます。